

## 外部資金によるプロジェクト推進（平成22年度採択案件）

### 「科学研究費補助金」地域研究を基盤としたアフリカ型の灌漑稲作支援のための新しい方法の創出（平成22～24年度）

2008年横浜で開催されたTICADIVを契機に日本政府によるアフリカの稲作に対する振興支援が本格的に開始されました。本研究の対象地域のあるケニアにおいても灌漑施設の整備が行われ、ダム建設などの支援が始まっています。灌漑稲作では、ほかの形態の稲作と異なり、持続的な稲作を行うためには地域で水の管理を行う水利組織が不可欠です。しかしながら、アフリカでは水利組織が地域住民の誰によって構成され、どのように維持されているのかほとんど情報がないのが現状です。本研究は、地域研究の手法を用い、現地の灌漑稲作の実態を、特に水利組織に着目して明らかにしていきます。その結果を踏まえ、現行の灌漑稲作に見られる問題点を抽出し、地域の現状に合った支援の方向を提案することを目標としています。（山根裕子）

### 「生物系特定産業技術研究支援センター・基礎研究推進事業」

#### 動物種を超えた繁殖制御を可能とするメタスチンの生理機能解析（平成19～23年度）

本研究プロジェクトは、(独)農業生物資源研究所と東京大学理学系研究科との共同研究により、新規生理活性ペプチド、メタスチン(キスペプチン)の生殖機能制御における生理作用を解明し、その作用を家畜および水産動物へと応用し、これらの動物を効率的に生産することを目的としています。メタスチンは、魚類から哺乳類まで、広い動物種において発見されている神経ペプチドで、性腺機能を支配する脳のメカニズムにおいて、重要な役割を果たしています。このペプチドを利用することで、動物の卵巣・精巣の刺激剤として用いることができ、また卵巣嚢腫など世界的に問題となっている疾患の原因を明らかにし、その治療法へ応用することができます。現在、実験動物における基礎的研究と家畜における応用研究を並行して推進しています。（前多敬一郎）



熱帯・亜熱帯で飼養されているセブー牛

### 農林水産省「平成22年度アフリカ農業研究者能力構築事業」を受託

本事業は、農林水産省の委託を受け、2006年度以降毎年実施しているもので、今年度で5回目になります。途上国に置かれている国際農業研究所（CGセンター）やアフリカにある大学や国立農業研究機関などで、アフリカに関連する農業研究を行っている日本人研究者のもとにアフリカ人若手研究者を招へいし、1～4ヶ月程度のオン・ザ・ジョブ・トレーニングまたはグループ研修を行います。それによって、日本人研究者の研究手法や技術等のアフリカ人研究者への直接的な伝達を図るとともに研究能力を構築し、そのノウハウを受け継ぐ若い研究者が生まれることが期待されています。今年度はアフリカライスセンター（元WARDA）（ベナン）、国際アグロフォレストリーセンター（ICRAF）（ケニア）、国際熱帯農業研究所（IITA）（ナイジェリア）、国際熱帯農業センター（CIAT）（コロンビア）、国立農業機械化センター（ナイジェリア）、民間のロールダイガ研究所（ケニア）の7名の日本人研究者が21名のアフリカ人研究者を招へいしました。（浅沼修一）

### 文部科学省「国際協カイニシアティブ」教育協力拠点形成事業に2件 昨年に引き続き採択

#### ① 農学知的支援ネットワークの組織力を活かした科学技術協力の推進

農学知的支援ネットワーク（JISNAS）は、文部科学省の支援を受け、農学（農林畜水産）分野の大学／研究機関の事業体として昨年11月に設立されました。大学等が有する知的資源を組織的かつ継続的に活用して途上国に焦点を当てた国際教育／研究協力の効果的・戦略的な推進や途上国のニーズに的確に対応することを目的としています。今年度はその組織力を活かして当該分野における国際協力の一層の質の向上を目指し、関係諸機関と連携して科学技術協力の具体的事例の形成等の活動に取り組んでいます。具体的には、JICA集団研修や国際科学技術協力プロジェクト等への応募やアフガニスタンの留学生受入などを通してJICA等との連携を構築することです。このような活動によって実績を重ね、ネットワークの実用性と有用性を明確にして、さらなる会員獲得につなげるなど、我が国による農学分野の科学技術協力の推進を図っていきます。（浅沼修一）

#### ② 開発途上国における拠点大学を中心とした農産物加工産業振興モデルの構築とその普及

この事業は、カンボジアにおける農業分野の基幹大学である王立農業大学（RUA）とともに農産物加工品の品質向上及び商品化に取り組むことで、RUAに「自国の農村・農家の実情や問題の解決に向けた、現場での実践に基づいた研究・教育体制」を構築することを支援し、これを「大学による農産物加工産業振興モデル」としてカンボジア国内及び同様の問題を抱えた近隣諸国に普及することを目的としています。

加工農家の多くが赤字経営に陥っている伝統的加工品である米蒸留酒を事例として取り上げ、品質向上、商品化に向けた生産量確保と品質管理のための生産農家のグループ化、試作品の製造を成し遂げてきました。事業開始から3年目となる今年度は、商品化、商品登録、販路開拓、商品販売に取り組むことで、大学による農産物加工産業振興モデルを構築し、RUAにおける実践的研究・教育体制を強化するとともに、これらの成果の近隣諸国への情報発信・普及に取り組めます。（伊藤香純）